

2021年度自己点検・自己評価について（国際高等課程）

I. 当校における自己点検・自己評価の取り組みについて

本校では、2005年度から、全国にあるYMCA専修学校とともにYMCA独自の自己点検・自己評価を実施し、教育の改善に努めてまいりました。2007年度の学校教育法および同法施行規則の改正により、専修学校においても2009年度から自己点検・自己評価が義務づけられたことを契機に、自己点検・自己評価の内容を同法に沿う形に改め、実施に取り組んでいます。

II. 2021年度自己点検・自己評価の結果について

（1）全体的な傾向

自己点検、自己評価の対象範囲は総合職、嘱託に広がっていますが、各々の学校についての理解度や設問の取り方によって値が変わってくることも見受けられます。学校運営の項目では、運営方針や事業策定は定められているものの、周知できていないことが分かります。また、公立の高等学校と比較することから毎年設備については評価が低くなっています。これは、グラウンドや専門の教室がないことから起因するものです。全般としては、教職員が生徒のために尽力し、かつ密な情報交換を行っている結果が推察されます。国際学科が2017年度より学科改編を行った結果もあり「教育理念、目的、育成人材像」や「生徒の受け入れ募集」「国際交流」などが高い結果となりました。

一方、授業評価はこれまでなされておらず、近年の課題となっています。この部分の検討・強化の必要性が、評価から見られます。

（2）項目毎の現状・課題と改善方策

（1）教育理念・目的・育成する人材像

①現状と課題

・教育理念の明確化について

本校は1980年に大阪府より専修学校としての認可を受け今日に至っており、国際高等課程では国際学科を1988年、表現・コミュニケーション学科を2005年に開設しております。しかし、その歴史は1882年の大阪YMCA創立以来、最も古い記録では1893年の英語夜学校設立までたどることができます。キリスト教精神に基づいて始められたYMCAは、「精神」「知性」「身体」の調和の取れた全人教育を理念としており、本校もこれを教育理念として掲げています。今回の自己評価では、平均3.3と高い評価となっており、学校関係者評価も平均3.6と高い評価になっています。昨年度に比べ自己評価が0.3低下しており、これは、新入教員が増え、理念の浸透に時間を要することが伺えます。

パンフレットやホームページにはこれらを明記しており、それぞれの学科のスクールモットーも明確です。生徒・保護者・教員に対しては学校説明会や入学後のオリエンテーション、日常の場面でも伝えており、国際学科では週に一度スクールモットーに照らし合わせた自身の振り返りを行っています。中学校への案内の際にも理念に触れ、周知できるようにしています。今年度はオンラインでも学校説明会を実施し、より多くの教育関係者に周知できる機会となりました。

②今後の改善方策

生徒の出身中学校などに、本校の特徴と併せて周知を行なうようにいたします。また、外部団体が主催する説明会などにも積極的に参加し、関係業界への周知を図ります。外的にはマスメディアや新聞に取り上げてもらうなどいたしました。次年度は内的にもより多くの教員に理解が行き届くよう努力いたします。

(2) 学校運営

①現状と課題

- ・運営方針、事業計画について

学校法人大阪YMCAで10年単位のビジョンを策定し、これに基づき2～3年単位の中期事業計画を立て、それをもとに法人に属する各学校の年度単位の事業計画を策定しています。本校もそのプロセスを経て、中期および年度単位の事業計画に基づいた学校運営を行っています。

- ・運営組織や意志決定機関について

上記学校運営に関わる事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校事業責任者会議がそれを受けて具体的な運営を行っています。本校においては、高校生事業会議でさらに、学科の責任者がそれぞれの部門の目標、役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営を行っています。また、部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従って目標を理解し、役割と責任を果しています。その全体像の理解が進むよう努力します。

- ・人事や処遇に関する制度について

常勤者の採用・人事・研修（一部非常勤者対象も含む）等に関しては、統括本部が管轄し、また非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄しています。これらの要員計画は、事業計画に基づいて策定しています。また、常勤者の処遇に関しては、人事考課制度（MBOの活用による評価制度）を定め、これとの連動による昇進・昇級および賃金規程を定めています。

- ・情報公開について

自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報は、ホームページで公開しております。

統括本部にはICT推進室が置かれ、全事業所の業務管理と効率化を図っており、常に改善をしております。個人情報保護のためにも全パソコンのUSB使用も禁止となっております。

②今後の改善方策

大阪YMCAの学校事業全体で整備に取り組み、2019年度より就業規則を改訂しました。より公正かつ適切で明確な処遇に改善しました。

(3) 教育活動

①現状と課題

(目標の設定等)

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等については、教育理念を具現化するための適切な教育課程を編成しております。授業のみならず学校行事一つひとつにおいて毎年、丁寧な見直しをしております。コロナ禍においても感染防止策を講じながら、学校行事を行って参りました。

各学科の特色に基づき、毎年教育目標を見直し、目標達成に向けた年間計画を策定し実施しています。

(教育方法・評価等)

時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させています。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応しています。

教科会議は学科毎に頻度が違い、頻度が低い学科は計画的に実施し、授業評価なども適切に実施することが改善として求められています。

表現・コミュニケーション学科の職場体験については、希望者のみならず必要とされた人に実施をし、実習前研修、ライフスキルの授業など体系的に行っております。幸いにも現在

は受け入れ企業を確保出来ており、YMC Aの他法人へも受け入れ依頼をしている状態です。国際学科においては、一人あたり40時間のインターンシップを学科の特徴としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によりプログラムを変更し、学内にてキャリア教育プログラムを実施しました。

(教職員)

・教員の確保とスキルの向上について

この4項目はすべて昨年度より評価が下がりました。これは通常通りの学校行事が実施できない中、自己評価が下がったことが起因すると考えます。例年通り、本校では、教員のスキルの向上について、大阪YMC A主催のセミナーを案内して参加を促し、表現・コミュニケーション学科講師会等で教員の取組などが発表されています。教員同士の授業見学や、研修授業の実施ができていないことが課題です。

教員には学年当初または学期当初にシラバスの提出を求め、部門責任者がそれをチェックし、必要により指導を行っています。

教職員の研修は、職員と専任教員に対しては大阪YMC A全体で、安全研修と人権研修がそれぞれ年2回実施されています。また高校生事業部門でも年4回合同研修会を行っています。国際高等課程主催の一般教職員向きのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしております。業務遂行のための研修は、OJTの視点を重視して日常業務の中で指導しています。

月に1度、アドバイザー会議を行い、学校運営の客観的な意見をいただいていることは、今後も継続的に実施いたします。

②今後の改善方策

授業評価の方法や内容について、今後協議・実施していきます。今までの教育方法がアクティブラーニングになっていると確信しておりますが、それらを評価し直し、次年度は教員同士の授業見学や研究授業を実施する予定です。

(4) 学修成果

①現状と課題

・進学率の向上について

本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には大学担当者(国内・海外)、専門学校担当者、職業訓練校担当者が、生徒一人ひとりの希望に応じて、計画的に進学指導を行っています。保護者にも1年次から適切な時期に進路ガイダンスを行い、学校と家庭が協力して支援することを行っております。国際学科は4割が関関同立早慶上智以上、2割が海外留学と日々の学習の成果を出す事が出来ました。

・資格取得率の向上について

資格取得を目標とする学科ではありませんが、英検、漢検、P検などは体系的な指導のもとに、生徒の学習意欲を高める動機づけとして資格取得できるように努めています。

・生徒指導と退学率の低減策について

複数担任制を導入し、ホームルーム、ショートホームルームで日々の様子を把握し、生徒の学習および学校生活の情報を教職員が連携して共有することにより、退学率は大変低くなっています。

・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

在校生はもちろん、卒業生についても動向の把握に努めております。「地域の成人式に出にくい」という生徒の声に応え、卒業後、「20歳の成人祝福式」を実施しております。卒業生には月に一度の特別活動、不定期なボランティア活動、年に一度のアンケートを実施しております。また大阪市不登校通所事業の業務委託や尼崎市教育支援室の業務委託を受け、そこにも卒業生がメンタルフレンドとして活躍し、就労移行支援の位置づけにもなっております。卒業後の活動、評価も把握しており、相談も継続的に受けています。

②今後の改善方策

両学科の卒業生が、卒業後も新たな進路でやり抜ける力を育むため、カリキュラムの見直しを行い、課題解決能力を養っていきます。

(5) 生徒支援

①現状と課題

- ・進路および生徒相談に関する支援体制について

本校では、国内外の大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者と、各クラス担任を配置して、一人ひとりの志望と能力・資質にあわせて進路指導と生徒相談に対応しています。

担任だけが対応するのではなく、学校全体での支援を保護者・医療機関、場合によっては中学校とも連携をとって行っています。「生徒・保護者からの相談体制は整備されているか」3.7「保護者と適切に連携しているか」3.4となり高評価となっています。保護者の評価も「スタッフは、親身に適切に対応している」が94%、生徒は「親身に相談に乗ってくれる」が94%と高評価でした。

表現・コミュニケーション学科では大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に生徒のサポートをしています。また、大学や専門学校との連携によりインターシップや実習の受け入れを行うことで、生徒にとっての多様な出会いの機会を増やすことができています。

両学科とも週に一度生徒支援会議を実施しています。また必要に応じて緊急会議や継続生徒支援会議を行い、一人ひとりの生徒を丁寧に支援しています。

保健室の養護教諭・カウンセラー・特別支援教育コーディネータとも十分な連携がとれ、重篤なケースは併設する総合教育センターや他機関（病院等）への誘導も行っています。

反面、これらの丁寧な支援に教職員が多く時間を費やすことが課題となっています。

②今後の改善方策

高等学校、高等専修学校や専門学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みについては、特定の学校のみとなっているので、学校以外の外部機関との連携も視野に入れ、今後広げていきたいと考えております。

(6) 教育環境

①現状と課題

- ・施設・設備等について

本校では、専門学校の設置基準に基づき、学生・生徒が快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保しています。また、それらの整備状況を各課程・学科の責任者が常に把握し、使用状況・使用計画、使用内規、学生・生徒に対する使用案内を行っています。

施設・設備のメンテナンスに関しては、責任者から上げられるレポートをもとに専門学校責任者会議で検討し、防災センターの一括管理と更新計画に基づいて、これにあたっています。オンライン配信用のPCの購入やプロジェクターの設置、ホワイトボードの設置など、教育環境の改善に努めております。また、国際学科では今年度よりBYOD（一人一台の端末を持参）をスタートし、在校生の91%がその利用について満足しており、効果を実感できております。

- ・職場実習、海外研修等について

国際高等課程では職場実習や海外研修に積極的に取り組んでいます。

外部関係機関・企業との連携による職業訓練校見学やオープンスクール見学、職場実習などを、生徒の職業観を育てる一端としております。また、多感なこの年齢での、アジアやニュージーランドでの海外研修の体験は、人としての成長を豊かにするものとなっています。国際学科はデンマークの高等学校とも連携協定を結び、同一年度内に双方の学校が往来をしています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、今年度のデンマークについてはオンラインでの交流となりました。

- ・防災に対する取り組みについて

毎年、法令に基づいた防災訓練を行っています。これは、大阪YMCA全体で作成している「安全管理ガイドライン」に基づいて本校の防災マニュアルを作成し、それに従った要員の配置と役割の明確化により防災訓練を行うものです。防災訓練は、2011年度より従来の火災を想定したものに加え、地震・津波の想定にも対応した訓練を加えています。また、要員の異動等による変更は毎年確認し、責任を明確にしています。国際高等課程として独自

にマニュアルを作成し、救急法も毎年実施しております。災害時、持ち出し用の非常連絡先カードを作成し、全員に提出を義務付けています。

また、学内や学外での万一の場合に備え、傷害保険に加入しています。

・学校行事について

大阪YMCAが開発したYELLプログラム（YMCA Experiential Learning & Leadership Program）を取り入れた宿泊行事を実施しました。1年生は非常に学びの多い時間となりましたが、2年生は十分な成果が得られませんでした。今後は、クラスや学年の成熟度に合わせてプログラムを工夫し、実施していきます。国際学科では、デンマークへの留学が実施できなかった為、修学旅行として沖縄へ行き、平和学習を行いました。生徒に対し情報開示し、納得を得て実施できたので、満足度は高く、充実したものになりました。表現・コミュニケーション学科では、池田市の大衆演劇を鑑賞したり、スポーツ大会を実施したりするなど、感染対策を講じながら、生徒にとって有意義な行事を模索し続けました。

両学科共に課題学習発表会を実施し、生徒が自ら課題を設定し、調べ学習からさらに考えを深め、自分の意見を伝える学習を行っています。

②今後の改善方策

非常時に対応する備蓄の食糧が不足していますので、改善を図ります。

（7）生徒の受入れ募集

①現状と課題

・生徒募集活動について

本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法については教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めています。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成しています。表現・コミュニケーション学科は、2022年度より定員を50名とし、より多くの生徒を受け入れられるようにしました。

学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップを行っています。

・入学選考について

入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載しています。

・学納金について

理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学納金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定しています。

（8）財務

①現状と課題

・学校の財務基盤について

本校では、統括本部財務と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年半期ごとの理事会・評議員会のチェックを経て、財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っています。

課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響や国際関係、世界経済状況等により、留学生の入学者数が大きく左右されるため留学生事業以外の収入による安定した収入基盤の確立が上げられます。

・予算・収支計画について

予算・収支に関しては、中期計画、年度計画に基づいて執行しています。予算・収支の総額および収支各項目の妥当性は、理事会・評議員会においてチェックがなされ、予算の問題点や今後の動向については業務組織に対する指摘が行われます。

・会計監査について

半期ごとに年2回、監事による会計監査と監査法人による会計監査を適正に行っており、理事会・評議員会に報告しています。

・財務情報の公開

自己点検・自己評価を公開するにあたって、財務情報の公開も行っています。

②今後の改善方策

安定した収入基盤の確立のため、また多文化理解向上やグローバルな人材育成のためにも、国際学科は2015年に学科改編をしました。留学する生徒が年々増えていますが、クラス運営とのバランスや留学時期を検討していきます。

(9) 法令等の遵守

①現状と課題

・本校におけるコンプライアンスについて

本校では、学校事業本部、法人を取り纏める統括本部に法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、学校事業本部、統括本部への報告を通じて、運用が適切であるかどうかを検証しています。

・個人情報の保護対策について

本校では、2005年以来、大阪YMCA全体で定めた個人情報保護ガイドラインに基づき、学校に必要な個人情報の保護を、学校事業本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めています。

・自己点検・自己評価の実施・改善と結果公開について

全国のYMCA専門学校グループとして2005年から独自の自己点検・自己評価を行っていましたが、公表はしていませんでした。2008年度から自己点検・自己評価の実施とともに、公表することも義務化されたことから、積極的に公開しております。

・第三者機関による評価について

本校ではこれまで第三者機関による評価は実施していませんでしたが、学校関係者評価は学内に定着させております。今後第三者機関の意見を取り入れることが課題です。

②今後の改善方策

第三者機関の意見を取り入れられるようにします。

(10) 社会貢献・地域貢献

①現状と課題

本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会活動に取り組んでいます。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀地域活動委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、大阪市や西区役所との連携により数々の社会活動を、生徒と共に行っています。

地域に対する公開講座・教育訓練については、国際高等課程内のYMCA総合教育センターにおいて、一般や教職員を対象として実施しています。オンラインで実施することで、より多くの方に受講いただけるようになりました。

表現・コミュニケーション学科アートクラブでは今年度も淀川キリスト教病院の季節のデコレーションを作成しました。また大阪メトロの駅に生徒作品の展示要請があり、協力をいたしました。

「ピンクシャツデー」の取り組みはいじめ防止のための大きな一歩となりました。

地域コミュニティ作りのためのとさぼりカーニバルは学校行事として位置づけ、地域の子どもたちの受入れを行ってきましたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は表現・コミュニケーション学科独自で実施し、生徒にとっては貴重な体験（模擬店を出店）となり、多くの保護者の方にご参加いただきました。3年生はSDGsの取り組みを行い、缶バッジを作成販売し、その利益を寄付することで社会課題に貢献しました。

国際学科では、スクールフェスティバルにてパフォーマンスを披露しました。

(11) 国際交流

①現状と課題

大阪YMCA国際専門学校にはビジネス専門課程を中心に留学生が400人以上在籍していることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツがある生徒が5割、また法人内にYMCAインターナショナルスクールをもち、世界の120の国と地域にYMCAがあり、国際交流をするには、大変恵まれた状況にあります。生徒たちは多様な国籍の人たちとの空間を日常的に過ごしています。

②今後の改善方策

学校内が地球であるという考えのもと、今後も多様性を生かし、生徒たちがグローバルな視点で平和を考えていけるように、その機会を提供したいと考えています。

Ⅲ. 2021年度外部アンケートについて

(1) 全体的な傾向

昨年に引き続き外部アンケートを実施いたしました。生徒にはホームルームを利用して実施、保護者には郵送し、回答は生徒を通じて提出していただきました。

外部アンケートは昨年通り全般に高評価です。学校関係者評価では、外部アンケートの評価の高さに驚かれ、非常に高い評価をいただきました。在校生が「この学校に入学してよかった」が91%、卒業生においては94%となっており、卒業してから学校の良さがわかると思われれます。卒業生の保護者に関しては「この学校にお子様を入学させて良かった」が97%となり、教職員、学校関係者も非常に驚く数字になっており、学校に対して深い信頼関係ができていたことがわかります。

(2) 項目毎の現状・課題と改善方策（在校生・卒業生）

(1) 学習態度

①現状と課題

生徒自らの態度について問うものですが、この項目だけは設問に対して「そう思わない」と書いているものがあります。顕著であるのは「遅刻はしていない」に関しては「そう思わない」が43%と2～3人に1人が自身が遅刻をすることがあると自覚しています。不登校経験のある生徒が多いこともひとつの原因と思われれます。それ以外では、概ね評価は高いと言えます。

②今後の改善方策

「遅刻はしていない（していなかった）」について、引き続き生活改善や対策を生徒と共に考え、改善を目指していきます。

(2) 授業

①現状と課題

各評価項目はおおむね80%以上が「そう思う」「ややそう思う」となっています。生徒にとっては満足のいく授業に改善したと受け止めております。習熟度別のクラスに対しても、機械的に点数でわけのではなく、必ず生徒の気持ちを尊重して行うことが反映されていることと思われれます。特に「授業はわかりやすい」には在校生0%、卒業生2%が「そう思わない」となっており、教員の努力がみられます。少人数制のクラスやアクティブラーニングを実践していることもこの評価につながったと思います。

(3) 学校行事

①「学校行事が楽しみである」の項目は「あまりそう思わない」「そう思わない」が在校生30%、卒業生14%となり、行事が苦手な生徒も多い中、事前の準備や保護者への説明会などにより、比較的強く抑えられていると考えられます。特に今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、変更が重なったことや楽しみにしていたけれど実施できなかった行事があったこと等も要因と考えます。

②今後の改善方策

学校外の方々と共に活動する学校行事は多く、また行事準備への時間を多くとっています。不登校経験が長く、人と集団で活動する経験が少ない生徒が表現・コミュニケーション学科には多く、学校行事は敷居が高いところもあると認識し学校行事の取り組み方を工夫いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じながら、生徒にとって有意義な学びとなる学校行事を模索し続けます。

(4) 生徒支援

①現状と課題

両学科とも高い評価でした。「教職員は親身に相談にのってくれる」在校生89%、卒業生93%でした。複数担任制や職員が生徒に関わっていることがこの評価に繋がったと考えます。

(5) 学校生活全般

①現状と課題

「校内の施設や設備は充実している」が在校生は84%となり、徐々に改善していることが見えてきたと思われます。卒業生が64%と低くなった要因は2年前と比較し、校内で過ごす時間が長くなったことから、校内の施設についての評価が下がったと推察されます。

②今後の改善方策

学校の施設・備品の老朽化に関しまして、引き続き計画をたて改善していきます。

(3) 項目毎の現状・課題と改善方策（保護者）

(1) 学校運営全般

①現状と課題

「この学校にお子様をいれて良かった」は、「そう思う」「ややそう思う」をあわせると、在校生保護者は99%、卒業生保護者が97%となり、非常に高評価となっています。

(2) 教育内容

①現状と課題

「学校行事以外でも生徒が活動できる場が充実している」には「そう思わない」が保護者5%で、それ以外の設問に対して卒業生保護者は「そう思わない」は5%未満となっており、教育内容には理解と賛同を得ていると受け止めております。学校行事への評価がやや低くなったのは新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、行事の中止や変更が理由と考えます。

(3) 健康管理

①現状と課題

94%が適切になされているという評価は、保健室運営内容の日々の充実、健康診断の結果にあわせた再検査の実施、日々の健康チェックが理由だと考えられます。

②今後の改善方策

健康管理は生徒の安全に繋がる大切なものです。思春期の身体と心づくりは、後々にも大きく影響します。また、新型コロナウイルス感染症予防の観点からも毎日の体温測定を継続してまいります。

これからも学校と家庭で生徒の健康を見守っていく考えです。

(4) 生徒支援

①現状と課題

ほとんどの項目で「そう思う」「ややそう思う」が90%以上となっています。特に「お子様には親身に適切に対応している」が在校生保護者95%、卒業生保護者94%となっており保護者から信頼を得ている成果だと受け止めております。日々の様子は担任を通して家

庭にお知らせしています。また担任にすべてを任せるのではなく、週に一度の生徒支援会議などを通して学科全体で生徒を支援しています。ただし「適切な進路指導ができている」については、低いわけではありませんが、在校生保護者は88%、卒業生保護者は73%であり、卒業生保護者の進路についての不満が伺われます。他の項目が非常に高い満足度の中では改善の必要があります。

②今後の改善方策

複数の担当者を設置し、多面的に支援できる体制を整えると共に、卒業生保護者の体験談を聞く機会などを作っていく、必要に応じて、養護教諭やスクールカウンセラー、YMCA総合教育センターと連携し、生徒を支援していきます。

また、卒業後を見据えた生徒支援を行っていきたいと考えています。特に大学入試が大きく改革されていきますので、適切な進路指導ができるようにしてまいります。

(5) 保護者

①現状と課題

両学科とも高い評価でした。保護者交流会やPTAは卒業してからも参加していただける仕組みにしていることも一因かと思われます。

②今後の改善方策

編入生保護者にも、丁寧な対応や、適切な情報をお伝えしていきます。

(6) 情報公開

①現状と課題

「学校のHPはわかりやすい内容になっている」は在校生保護者93%、卒業生保護者97%と評価が高くなりました。また、「さくら連絡網」という一斉配信のシステムを導入し、タイムリーに情報を共有することができるようになりました。さくら連絡網について保護者は98%が有効であると回答いただきました。

②今後の改善方策

今後も、ホームページやインスタグラムを通じて、適切な内容をタイムリーに頻回にアップロードしていきます。また、もう少し早く連絡が欲しかったとの意見もありましたので、さらにタイミングに留意して配信し「さくら連絡網」を有効活用してまいります。

以 上